99年に30年ぶりに日本に拠点を移し、演奏はもとより、教育活動にも精力を注ぐ藤原由紀乃。彼女の「魂の響」シリーズは、今回で13回目を数える。「プロコフィエフのタベ」と銘打った当夜のリサイタルは、多くのファン待望のプログラムであり、充実した一夜であった。実は昨年、彼女に話を聞いた折、「自分の中に、少し迷いを感じる」と述べていた。昨年のリサイタルでは、確かにその"ような一面が演奏にも表れていたが、今年の彼女は違っていた。藤原由紀乃は、言葉のみならず演奏にも、本当に正直に自分を投影するピアニストで、「自らの人生を有りのままに音楽の言葉に託すことのできる「真の音楽家」である。当夜は、「4つのエチュード」「夢の間の幻影」、ソナタ第7番というバランスのとれたプログラミングであった。そこには、プロコフィエフ特有の表面的なダイナミクスよりも、自身の遠いに対する答えを作品の中から見い出そうとし、ひとつひとつの音に耳を傾け対話する藤原の姿があった。音楽と真摯に、多くの聴衆は魅了された。このリサイタルの手応えを、藤原自身も充分に感じていると思う。

（7月4日　東京文化会館小ホール）

4人の若いピアニストの共演
チェコフィル六重奏団との共演の夕べ

家永勝

杉谷昭子ピアノアカデミー主催のチェコフィルの団員による室内楽団と4人の若いピアニストの共演。最初はドヴォルザークのピアノ三重奏曲4番作品90。ピアノは4手連弾に編曲されていた。中村悠子と中村紗也子。姉妹で、2人共パリで研鑽を積んだ人たち。民族的な味の濃い6楽章の音楽を4手とヴァイオリンとチェロで演奏、対応は変化に富み、面白い。2楽章などの民俗舞踊的な音楽の盛り上がりは見事。5楽章のむせび鳴くヴァイオリンに対する手の応えが印象的だった。編曲の成果もうまく表れる。次にドヴォルザークのピアノ五重奏曲作品81を高校3年生の小田島常芳と4人の弦楽奏者で演奏する。エネルギッシュな演奏だった。民族色の濃い2楽章は聴きものであった。少しも力みのないピアノで自己主張したのは立派だ。4楽章からもっとも面白かったが、力量ある四重奏団の弦との調和もうまさえてくるならば、より効果的であったのではなかろうか。しかし見事な健闘であった。

（7月4日　かつしかシンフォニーヒルズ　アイリスホール）

細やかな音楽表現
稲田潤子＆東京ニューシティ管弦楽団

家永勝

後半のピアノには東京芸大2年生の秋田悠一郎がブラームスのピアノ五重奏作品34を共演する。実に大きな曲だ。2楽章でのピアノの表情は4人の弦の大きな表現の中にうまくとけこみ、よく歌えていた。3楽章の弦とピアノの受け渡しも面白かったし、終楽章の2つの主題の流れも美しく、秋田のピアノは自然さがあり、4つの弦楽器との相性も悪くない。4楽器の大きな盛り上げと対等なスケールの大きさを見せていた。熱演であった。若いピアニストがこのような外国のベテラン楽者と共演できるチャンスを与えられたことは、すばらしいことである。

（7月4日　かつしかシンフォニーヒルズ　アイリスホール）

東京ニューシティ管弦楽団の第40回定期演奏会のソリストに福間洸太朗が登場し、ラフマニノフのピアノ協奏曲第2番作品18を弾いた。福間は、かつてモスクワで行われたラフマニノフ国際音楽コンクールのピアノ部門で第3位を受賞するなどの実績がある。1楽章、厚いオケの音圧を縫って、透明感と情緒ある第1主題のメランコリックな歌にも同時にうまく伝わる。2楽章では静かに、たっぷりと自然な歌を聴かせる。パッセージの展開も面白く、ピアノの活躍はめざましい。3楽章、ここでオケとピアノはうまくあい、面白い表情を見せつつ終曲に向けての大きな盛り上げは聴きごたえがあった。福田は実に細やかな音楽表現をするので、オケをもう少し押さえてほしかった。指揮の内藤彰はピアノを充分に歌わせる術がうまく、その点はさすがだった。福田もずっかりと手の内に入っているラフマニノフの自己主張は感じとった。

（7月5日　東京芸術劇場大ホール）

大作並ぶ
ワルシャワ・フィルコンサートマスターとの共演によるピアノトリオの夕べ

白石知雄

後半のブルックナーの交響曲第4番にはブルックナー協会第3稿出界初演との記述があった。1楽章の強烈な大きな主題の追力は作品の中に音楽の立体感を浮かばせ、個性的な表情と共に独自の面白さを出す。2楽章にはにじみ出るような感覚があり、幻想的な世界へと引きこんでいった。3楽章はたっぷり余裕のある音楽の大活躍。嵐の前ぶれのような音楽の中に様々なフレーズがそれぞれ独自の表情を見せる。終楽章、ここでもステージ上の全楽器が大活躍で圧倒的な盛り上げの中にブルックナー音楽の真髄を表出することに成功。内藤の熱のこもった音楽作りはまったく見事であったし、オケも充分にそれに応えた演奏をしていた。

（7月5日　東京芸術劇場大ホール）

ポーランドは、ドイツとロシアに挟まれ、複雑な歴史を背負った国ではあるが、音楽の面では、西側に開かれた風土があるのかもしれない。ヴァイオリンのピオトル・ツェギエルスキ、チェロのカジミール・コシュラーチュ、ピアニストのピョートル・スコシャワの2人と共演経験があるらしく、確かに手慣れた演奏だった。骨格のしっかりした音は、スケルツォ楽章の速い動きを決めるのに最適。ぐいぐいと音楽を自分のペースでリードしようとする彼女に、他の2人が負けじと食い下がるので、やや息苦しい感じだが、それぞれが全力を出し切る演奏になっていたのではないだろうか。

（7月7日　いずみホール）

日本の最高水準をいく
菅英三子
ソプラノリサイタル

家永勝

この人の独唱会を聴くのはすいぶんと久方ぶりの感。菅は京都市立芸術大学とウィーン国立音楽大学を卒業後、Aクラウス国際声楽コンクール第2位。ウィーン国際新進オペラ歌手コンクール第1位などのほか、国内の藤沢オペラコンクールでも第1位の輝かしい入賞歴など、たくさんの音楽賞を授与されている。この日は8曲の名アリアが歌われる。ヴェルディ「リゴレット」の「慕わしき人の名」など抜群のコロラトゥーラの高度なテクニックの中よりジルダの心境が心痛いばかりに伝わる。ヴェルディの「海賊」の「あの人はまた帰ってこない」でも絶妙な音色の変化の中にメドーラの身を案じる心のうちの気持ちは充分で、納得感があった。「シチリア島のタベの祈り」の「ありがとう愛する友よ」では彼女の澄み出る果のような声が魅力たっぷりと響けたのもよかった。

後半、ベッリーニ「ノルマ」の「清らかな女神よ、押さえたソットヴォーチェの中に独自のスタイルがあった。高声は空間の中に大きな広がりをみせた。実にいい表情でノルマの敏感な祈りが聴く側にも伝わってきた。ロッシーニ「セヴィリアの理髪師」の「今の歌声」でも真に彼女のコロラトゥーラの技術を痛感する。ロジーナの想いは痛いほど伝わる。8曲目ドニゼッティ「ランメルモールのルチア」の「あたりは沈黙に閉ざされて」は、この日の圧巻。天使のような七変化する声は、すばらしい魅力。すっかりと聴きほれて快感を感じる。ルチアの心の中のひだが表現できたアリアに感心。現在日本の最高水準をいくソプラノの1人と思える。バオロ・バラリーノのピアノもオペラを知りつくした奏法で、彼女の歌を盛りたてるそのうまさには目をみはるものがあった。

（7月2日　紀尾井ホール）

■お詫びと訂正

8月号本欄において、大導寺鎌太郎さん評の本文中、お名前に誤りがありました。ここにお詫びし、訂正いたします。

■コンサートについての読者の皆さんのご感想をお寄せください。優れたものは誌上でご紹介します。住所、氏名、電話番号を明記の上、本誌「コンサート感想係」までお送りください。掲載の場合は薄謝進呈。

ない。

そのほか音楽関連では、オーケストラ、オペラ、ジャズ、邦楽、民族音楽など藝大生有志による演奏や声楽科3年生によるオペラ『フィガロの結婚』、作曲科の自作発表会、日本舞踊公演など、藝大生の個性溢れる企画で満ちあふれている。ふだんなかなか聴くことのない音楽と出会うチャンス。詳細は、藝祭ホームページ。

■9月9日（金）～11日（日）
9:00～20:00　東京藝術大学上野校ほか　入場無料
【問】藝祭
http://www.geidai.ac.jp/event/geisai

モンサンジョン
との3日間
in Tokyo

リヒテル、グールドなど大物音楽家たちをカメラで捉えてきた映像作家ブリュノ・モンサンジョン。「私の映画の主役になる人間は、自分の一部になるくらいの存在であってほしい」と語るモンサンジョンが捉えた往年の名演奏家たちがこのたびスクリーンでよみがえる。彼の映像作品を一挙にスクリーン上映するのは世界初の試み。

■9月27日（火）
「偉大な芸術家の肖像」
■9月28日（水）
「グレン・グールドの真実」
■9月29日（木）
「未来の偉大な芸術家」
銀座ヤマハホール
上映：1回券1,000円、3回券2,500円／演奏とトーク：全席指定2,000円（28日のみ2,500円）
【前売】チケットぴあ　0570-02-9990／イープラス　03-5749-9960

SEMINAR

深沢亮子
公開レッスン＆
リサイタル

15歳で日本音楽コンクール1位を受賞して以来、50年以上も第一線で活躍しつづけている日本ピアノ界の重鎮、深沢亮子。彼女のモーツァルト、ショパン、ベートーヴェン、ハイドン、シューマン、ドビュシー……どれもが卓越しているが、その上で30年以上にわたり、日本の優れた現代作曲家助川敏弥氏、十河陽一氏ほかの作品を日本国内はもとより海外でも精力的に演奏、紹介している。

若手演奏家にも引けをとらない、意欲的な、それでいて繊細を極めた色彩鮮やかな世界を堪能させてくれる深沢さん。この秋神奈川県下で公開レッスンとリサイタルをおこなう。

■公開レッスン
10月30日（日）13:00
イノウエホール（小田急線登戸駅下車徒歩5分）
受講生4～5名、聴講生60名募集。いずれも小学生以上。
※受講生はテープ、MD審査あり（国内外コンクール予選通過者は免除）

■リサイタル
11月28日（月）19:00
神奈川県民ホール小ホール
全自由席　一般4000円／学生2000円
【問】日本アンサンブル協会
044-944-3393

ヴィクトル・リャードフ
ピアノセミナー2005
受講生募集

第2回『浜松国際ピアノコンクール』の覇者ヴィクトル・リャードフ氏を講師に迎えておこなうピアノセミナーも今年で第3回目。

リャードフ氏は、モスクワ音楽院でタチアナ・ニコライエワ女史に師事。正統派ロシアンピアニズムをいまに受け継いでいる。「ロシアの伝統的演奏法を日本の若い演奏家たちに教授できることは私にとって大きな喜び」と語るリャードフ氏のレッスンは、今年も実り多いものとなるだろう。

なお、今年は日露修好150周年にあたる。リャードフ氏は「このセミナーが日本とロシア両国の音楽文化交流の一助となることを願っている」という。

■11月22日（火）～27日（日）
株式会社日本ピアノサービス内レッスンルーム
（阪神電車、六甲ライナー「魚崎」駅下車徒歩10分）
【受講資格】ピアノを専門的に勉強している者
【募集人数】約20名
【受講料】60分コース：1レッスン28,000円／90分コース：1レッスン39,000円　※複数レッスン受講可。2回目以降60分25,000円／90分36,000円
【申込受付期間】9月1日（木）～11月2日（水）
【問】ヴィクトル・リャードフピアノセミナー実行委員会事務局
06-6543-1729
pianoseminar@nifty.com
http://homepage3.nifty.com/pianoseminar/

COMPETITION

第3回
東京音楽コンクール
ピアノ部門本選

東京音楽コンクールは、ピアノ、弦楽、木管、金管、声楽の5部門で実施され、今年は応募総数277名、ピアノ部門には43名がエントリーした。ピアノ部門本選には、第1次、第2次予選を勝ち抜いた5名が出場する。

コンクールでは聴衆の温かい応援が出場者にとってこの上ないパワーになる。出場者ひとりひとりがそれぞれの持ち味を充分に発揮できるよう、あなたの力を分けてあげてください。

■ピアノ部門本選
8月27日（土）13:15
東京文化会館小ホール
【出演】北村朋幹／福富彩子／小口真奈／倉澤 華／日下知奈
全席自由　1,000円
【問】東京文化会館事業企画課
03-3828-2111
http://www.t-bunka.jp

国内初!! ワンタッチ高低補助台 ピアノベース

スラントペダル（黒）
SP-D型　¥18,900（税込）
♪低価格で本格型
♪斜めペダルでスムーズに作動
♪4段高低。UP・GP共用
♪重さ約7Kgで安定抜群
♪円盤ペダル金具で演奏中のズレ防止
◎カタログ送付無料！
〒154-0011 東京都世田谷区上馬 4-27-22
ピアノ フレッシュ センター
http://www.kmusik.net
TEL 03-3410-9852
フリーFAX 0120-11-4269

音楽専門 オーダーレンタルドレス♪

♪プロの演奏家の為のドレス
♪音楽学校の学生の為のドレス
♪趣味で音楽を楽しんでる方のドレス
ヨーデル
紳士・婦人・子供用　オーダーも承ります。
（ソロ・オーケストラ・合唱など）
TEL 03-3462-5701
〒150-0042　東京都渋谷区宇田川町6-11
廣陽パークマンション1002号（10F）
http://www.e-yodel.com

●駐車場完備